

## コロナ禍中の新年を迎えて

理事長・編集長 宮田和実

謹んで、新年の御祝詞を申し上げます。  
伝統ある「みみより会」の理事長となつて、二年目の新年を迎えました。

例年なら、多少なりとも、浮かれ気分です。過ぎてはいるのではないかと想像するのですが、今年はいきません。

一昨年の暮れに、とんでもないものが姿を現したからです。その名も「新型コロナウイルス」中国を起源とするこの怪物は、新年を迎えたばかりの全世界をあっという間に席卷し、その脅威によって、感染拡大防止のため、三密回避、不要不急の外出制限、自粛が迫られました。

マスクの着用、うがい、手洗いの推奨、ソーシャル・ディスタンス、消毒の徹底など、自己防衛のための対策が取られ、仕事も、リモート、オンラインが推進されました。

人の集まる全国の施設で利用が制限さ

れ、三田の障害者福祉会館も同様に、利用が制限されたため、様々なイベントが中止或いは規模を縮小した開催となりました。

そのため、みみより会としても、理事会は、なるべく三田に集合することを避け、Zoomを使ってオンライン開催、総会も、書面表決方式を採用しました。例会に關しても、集まるのが推奨できないため、有志企画という形で、感染拡大に結び付かないよう気をつけながら開催しました。

中でも、オンラインバスツアーは、新しい発見で、これからも取り入れることができるかと期待しています。

このような状態は、これを書いている二〇二〇年の一二月までも、依然として続いています。海外では、ワクチンが開発され、接種が始まっているところもあります。予断を許さない状況は変わりありません。

日本では、第三波が、第一波、第二波以上の猛威を振るっています。経済の破

綻を防ぐため、政府も、思い切った政策を実施できない状況のようです。

幸い、みみより会員の感染は、情報として、こちらには届いていませんが、大っぴらに言えることではないので、水面下ではあるのではないかと心配しています。そんな中、様々な分野でみみより会を支えてこられた味蓼雅美前編集長が昨年一月二十九日に七五歳で永眠。長年に亘つてみみより会の役員を務め、日本の手話だけでなく国際手話の普及にも貢献された大森節子さんが五月一八日に永眠しました。みみより会創成期の理事長夫人で、手芸クラブで指導もされていた高寺雅子さんも亡くなられたと風の噂で届きました。謹んでご冥福をお祈りします。

こういう時こそ、みみより誌を充実させ、ステイホームで楽しんで頂けたらと、編集長として、全力で取り組む所存ですので、皆様、御協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

×

×

みやた かづみ(栃木県那須塩原市)